



学校では、国語や算数といった教科学習だけではなく、様々なことを学ぶ時間があります。教育現場では、「〇〇教育」「〇〇学習」という言葉がよく使われ、数え切れないほどあります。今回は、そのうち「反戦平和」と「国際理解・文化共生」というテーマでの取組について紹介します。

まず平和学習について、「まみひがし第4号」で紹介した1学期の取組に続き、2学期には全校一斉での平和集会に取り組みました。

今日は、全校平和集会です。この平和集会が始まるにあたり、みなさんにお話したいことが一つあります。それは「想像する力」です。みなさんは、この夏休み、友達や家族と遊んだり、いろいろなことを経験したりして、いっぱい楽しめましたか？ ときには、ケンカをすることがあったとしても、次の日には「ごめんね」って仲直りをして、また一緒に遊ぶことができると、しあわせな気持ちになり、安心して生活できるようになります。でも、世界には、もしかしたら今この瞬間にも、安心して眠ることができなかったり、お腹をすかせたりしている、みなさんと同じくらいの年頃の子供たちがいます。

私たちは、そんな人たちのことを「想像する力」を持っています。「もし、自分だったらどうだろう？」と、相手の気持ちになって考えてみる。これが、平和の第一歩だと校長先生は思います。想像する力があれば、誰かを傷つけるような言葉を言う前に「これを言われたら、どんな気持ちになるだろう？」と考えられます。想像する力があれば、困っている人がいたときに「もしかしたら、助けを必要としているかもしれない」と気づくことができます。

みなさんの心の中にある「想像する力」は、世界を変える力を持っています。今日一日、この平和集会を通して、「想像する力」を大きく育ててほしいと願っています。

※平和集会冒頭のおはなし



放送朝会の後、各学年とも、発達段階に応じた動画教材等を用いながら、当時起こった出来事について学びました。今年は、戦後80年の節目の年ということもあり、様々なメディアにおいて特集が組まれましたが、中には、家族と一緒に関連する番組等を視聴した子どももいたようです。戦争の悲惨さ、命の大切さなどについて意見を交流し、一生懸命に考える姿が見られました。

次に、国際理解・文化共生について、本稿では2年生の取組について紹介します。

今年度は、市内でインド料理のお店をされている方をゲストティーチャーとしてお招きしました。たくさんの写真や実物を見せながら、ネパールの食べ物や自然、服装や言葉について詳しく教えてくださいました。子どもたちは興味津々でお話に聞き入り、持って来てくださったネパールの紙幣や服を見ていました。



子どもたちからの質問にもたくさん答えてくださり、とても充実した時間となりました。授業の最後には、「ありがとう」と「さようなら」をネパール語で教えていただき、みんなであいさつすることもできました。子どもたちは、「日本とちがうところがあって、おどろいた。」「ネパール語であいさつができるようになってうれしかった。」という感想を書いてくれました。



曽爾での野外活動

5年生の野外活動は、今年も国立曽爾青少年自然の家での学習でした。天気の心配をしていましたが、ほとんどの活動を予定どおりに行うことができました。

1日目の焼き板づくりや野外炊飯では、4年生のときに自分たちで皮むきをした杉やひのきを薪として使いました。夜に予定していたキャンプファイヤーは、雷が鳴っていたので急遽「キャンドルサービス」に変更しましたが、みんなで大いに盛り上がり、楽しく活動する姿を見せられました。2日目には、班ごとにフォトテリングを楽しみました。

1泊2日の宿泊学習を通して、日頃できない経験をたくさん積んでくれたと思います。保護者のみなさまにおかれましては、様々なご準備をいただき、ありがとうございました。



焼き板づくりをしています。完成が楽しみです。



火の神であるアブラハムと一緒に、神聖な儀式をしています。